

事業所の概要表

(令和 4年 8月 8日現在)

事業所名	グループホーム 楽生苑					
法人名	有限会社エンジョイライフ					
所在地	愛媛県大洲市松尾465番地1					
電話番号	0893-57-6150					
FAX番号	0893-57-6151					
HPアドレス	http://www.enjoylife-care.jp					
開設年月日	平成 26 年 4 月 1 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (2) 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (小規模多機能型居宅介護・有料老人ホーム)					
ユニット数	1 ユニット		利用定員数 9 人			
利用者人数	9 名 (男性 4 人 女性 5 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	1 名	要介護2	1 名
	要介護3	3 名	要介護4	2 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	3 人	1~3年未満	3 人	3~5年未満	1 人
	5~10年未満	2 人	10年以上	人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 6 人			
	その他 ()					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	石川内科					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	35,000 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,500 円 (朝食: 350 円 昼食: 600 円)
	おやつ:	円 (夕食: 550 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	・ 水道光熱費	10,000 円
	・ 管理費	5,000 円
	・	円
	・	円

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 0 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 12 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	0 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input type="checkbox"/> 市町担当者 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input type="checkbox"/> 民生委員 <input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input type="checkbox"/> 家族等
	<input type="checkbox"/> その他 (婦人会、公民館長、区長)	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和4年9月25日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	5	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	6		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3890700077
事業所名	グループホーム 楽生苑
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	中田大輝
自己評価作成日	令和4年 8月 8日

<p>【事業所理念】※事業所記入 笑顔 慈愛 共に楽しく生きる</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 新型コロナウイルスの影響があり面会禁止。家族とは電話のみのやりとりをしている。家族は本人の状態を知る機会が少なく、そのため、休止していたお便りを再開した。写真ではあるが生活の様子を確認できて安心したという声もあった。家族と定期的に連絡をとり相談したり協力することで共に支え合う支援ができた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 家族の面会が十分にできないことを受けて、令和3年6月より、利用者の暮らしぶりの写真を載せた楽生苑だよりの発行を再開して家族に送付している。 1日数回、職員が戸外にゴミ捨てに行く際には、利用者を誘って一緒に行っている。 午前中に、皆で体操を行う時間を設けている。 大洲市内グループホームの管理者連絡会が設置されており、それぞれの管理者が連携をされており、持ち回りで世話役になり運営している。</p>
---	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	介護記録に残し把握できるようにボーダーラインを引いている。思いを汲み取れる場面が限られている。	○		△	入居時、利用者や家族等に希望や要望を聞き取り、フェースシートに記入している。日々の中で本人から聞いた希望等は、介護記録に記入して下線を引いておき、3ヶ月に1回、アセスメントシートにまとめている。 現在、言葉で希望を伝えにくいような利用者が多いようだが、そのような利用者についても、取り組みに工夫してほしい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	困難な方や失語症の方は、ジェスチャーや仕草や表情から把握し検討している。本人の立場に立った援助をしている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	新型コロナウイルスによる感染拡大防止のため、電話での聞き取りをしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	介護記録に把握できるようにボーダーラインは引き、アセスメントシートに残し共有化している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の発した言葉を記録することにより、本人の思いを気づくようにしている。朝の申し送り話し合い見落としをしないよう努めている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	ご家族と電話を通して話したり、会話を通して本人から聞いている。				入居時、家族に聞き取り、生活歴、趣味、楽しみ、特技、友人、地域との関係などの情報をフェースシートに記入しており、要介護認定更新時に見直している。利用者によっては、入居前に、自宅訪問して聞いている。さらに、情報を増やして「その人らしい暮らしを支える」支援に活かしてほしい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	普段の関わりと見直し時に確認して把握に努めている。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	介護記録、日報、排泄記録等に状態を記入して、申し送り共有するようにしている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	把握した情報で職員だけで検討している。本人をよく知る関係者等は参加できていない。				アセスメントシートをもとに、ケアカンファレンス(職員のみ)で話し合い検討している。利用者が出席する場合は、意見を聞くが、「今のままでよい」「特にしたいことはない」と言うことが多いようだ。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	情報を持ち寄り話し合い、課題の把握に努め共有している。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	日々の会話や様子を把握しているが、全てが反映されているわけではない。				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご本人、ご家族の意見や要望も聞きながら、介護計画に反映している。	△		○	理学療法士や医師のアドバイス、本人や家族の意向を踏まえて、職員で話し合い、介護計画を作成している。さらに、家族アンケート結果を踏まえて取り組みに工夫してほしい。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人の生活リズムを尊重して、その人らしく過ごせるように努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	新型コロナウイルスの影響により、協力は難しい。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	毎回介護計画を確認しながら、介護記録を記入している。				3ヶ月に1回のケアカンファレンス時に介護計画について話し合い、内容の把握・理解につなげている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	支援に向けて活用できるように介護記録に介護計画について記入する欄を設けている。実践できたかできていないかは記入しているが、結果については記入していない。				介護記録に介護計画についての記入欄を設けており、毎日、計画の番号・記号を記入して、実践した内容を記録している。さらに、記録内容を工夫してはどうか。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3ヶ月定期的に見直しをしている。			○	管理者が責任を持って期間を管理しており、3ヶ月に1回見直しを行っている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	ケアカンファレンスで現状確認はしているが、変化があった方のみ見直す。			△	3ヶ月に1回、管理者が評価表(モニタリング)を記入している。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が生じた際は、話し合いをして検討することになっている。			○	退院時、身体状態に変化があった際に見直しを行った事例がある。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月1回の業務カンファレンスや、朝・夕の申し送り話し合いもある。			◎	月1回、業務カンファレンス(職員会議やケアカンファレンス含む)を行い、議事録を作成している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議はそれぞれの思いや考えを活発に意見交換できており、相談も交えながら話しやすい雰囲気である。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	多くの職員が参加できるように日時を早めに決め、集中して話し合いができる夜間帯に実施。また、参加できなかった職員も会議録に目を通して、確認したら各自サインしている。			◎	夜間帯に業務カンファレンスを行っている。職員から日中開催の希望があり、10月から日中開催に変更予定となっている。すべての職員が議事録を確認して押印するしきみをつくっている。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノート、業務ノート、日報を活用して、申し送りや職員間で情報を共有している。	○		○	利用者のその日の様子については、申し送りノート、伝達事項や医療、家族に関する内容については、業務ノートに記入して申し送っている。さらに、重複した記録等もみられた。業務の効率性等からも見直してみようか。	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	パズルがしたい、美味しく食事がしたい、自分のタイミングでトイレに行きたいなど把握に努め、したいことができるように努力している。					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給、入浴の順番、調整剤服用の有無確認、選択する機会をつくらせている。			○	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、事業所からの希望により、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	ひとり一人のペースに合わせて支援に努めているが、時々安全を考慮して職員の都合を優先してしまっていることもある。					
		d	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	作業活動時「ありがとう」と労いの言葉をかけ、本人が好きなおもちゃやパズルや散歩等に付き添い、共に楽しむ雰囲気作りをしている。				○	管理者は、家族に「利用者本人の誕生日にリモート面会ははどうですか?」等と声をかけている。
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	ジェスチャーの理解に努め表情や反応を観察して、意向に沿った支援をしている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声をかけないよう配慮、自立たざさりげない言葉かけや対応等)	○	プライバシー保護について内部研修できなかった。接客については内部研修した。各自職員は言葉かけや態度に気をつけている。	○	○	△	この一年間では、外部研修を受講する機会を持っていない。内部研修を行っているが、人権や尊厳とは何かを学ぶような機会を持っていない。「言葉かけや態度等について常に意識して行動することについては、各職員に任せている状態にある。	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	不必要な露出に気を付けたり、場面によってはタオル使用して配慮している。					
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室時は、ノックや声掛けしてから入ったり、退室時はドアを閉めるように心掛けている。				○	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、事業所からの希望により、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	△	プライバシー保護についての内部研修ができなかった。過去に研修はしているので、職員は理解している。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	手伝いをしていた際は、感謝の気持ちを伝えている。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	自然体な生活を大切に、ご利用者が支え合っている時は見守りをする。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)	○	日々の生活で気持ちや関係性を把握し、席に配慮している。一緒に作業活動したりテレビを見て過ごしている。			○	同じことを繰り返し言うような利用者のことが気になる人には、「塗り絵しますか?」等と声をかけて、気が散れるように関わっている。午前中に、皆で体操を行う時間を設けている。	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が仲介に入って、お互いの不安が軽減できるよう努めている。					
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	フェースシートを活用したり、普段の会話やご家族から知ることはできるが、人間関係や馴染みの場所などは具体的に把握できていないこともある。					
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	新型コロナウイルスの影響によりできていない。					
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	新型コロナウイルス感染防止のため、外出支援は控えている。敷地内で外気浴支援をしている。	△	△	×	1日数回、職員が戸外にゴミ捨てに行く際には、利用者を誘って一緒に行っている。過ごしやすい時期には、ベランダに出て過ごすことはあるが、その他に、戸外で過ごす機会はほぼない。さらに、時期や場所に配慮しながら外出して、利用者、職員の気分転換を図ってほしい。	
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	新型コロナウイルスの影響によりできていない。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	行動・心理症状について理解している。変化や症状について職員間で話し合い取り組んでいる。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、事業所からの希望により、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。		
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で本人ができることは見守り、もしくは一緒にお手伝いして支援している。状態によっては他職種のリハビリを取り入れたりもしている。						
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	作業活動、体操、食事の自力摂取等、できることは見守りしている。	○				評価困難	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	楽しみごとや役割等を把握して職員間で共有している。				誕生日には、ケーキを手づくりしてお祝いしている。プレゼントは、他利用者から本人に渡してもらおうとして、他者からお祝いの言葉をかけてもらったり、また、本人がお礼のあいさつをしたりするような場面をつくっている。さらに、戸外でも活動できるような機会を増やしてはどうか。		
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	パズルや散歩が楽しみだったり、洗濯物たたみやエプロンたたき等の役割をもち生活している。	○	○	△			
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ご本人の好みを把握してその人らしく年齢にも合った身だしなみやおしゃれができるように支援している。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、事業所からの希望により、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。		
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	洋服を選んでもらったり、カバンやタオルを持ち歩いたり、毎日自分で化粧したりしている。						
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	身につけているものから、どれが良いのか考えながら、ご本人が選択してできるように支援している。						
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合わせて服装を変えている。ご家族から届いた衣類をご本人に伝え着用されることもある。						
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできずさげかねる。髪、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食べこぼしや、口の周囲の汚れは、おしぼりやタオル等を利用して、会話の中でさりげなくするようにしている。着衣も乱れていたら整えている。			○		○	評価困難
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	1ヶ月に1度理容店の訪問時に利用している。望む店に行くことはできていない。						
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	その人らしさを大切に毎日洋服を着替えたり、髭をそっている。			○			お気に入りの服を持ち込んでいる人は、その洋服をよく着ており、収納場所を決めて、本人が管理できるように気を付けて支援している。
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は生活の中で楽しみの一つでも大切にしている。				法人の厨房から食事が届く。朝食は事業所で職員がつくっている。利用者が買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等に関わることはほぼない。		
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	新型コロナウイルス感染防止のため、簡単なおやつ作りのみ一緒に調理している。			×			
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	新型コロナウイルスの影響により現在は機会が少ない。						
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	現在アレルギーある方はいない。好き嫌いも把握して、苦手な物は代用して対応している。						
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	旬の食材を利用するような献立づくりをしている。			○			春には土筆や筍などの食材を採り入れたメニューが並んだようだ。敬老の日の主食は、赤飯を採り入れていた。秋には、栗ご飯や芋炊きなどを献立に採り入れている。
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	その人の咀嚼・嚥下の力を把握して提供している。色どりや盛り付けにも気を付けている。						
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	その人に合った持ちやすかったり、使いやすい物を選んだり、一人一人違ったコップや箸を使用している。			○			入居時に持ち込んだものや誕生日に事業所からプレゼントしたものなど、自分専用のものを使用している。手づかみで食べる人には、深めの食器を使用している。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事と一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員一人一人がテーブルに分かれて一緒に食事をしてしたが、新型コロナウイルス感染防止のため、利用者食事が終了後、職員は個別で食べている。					△	利用者の食事時間は介助に徹している。早出の職員のみ、昼食を食べており、その他の職員は個々に用意した弁当等を別の場所で食べている。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事のメニューをお伝えしたり、音楽を流して、雰囲気作りをしている。			○		○	盛り付けは事業所で行っている。昼食前の体操の後に、職員が献立を伝えている。食事の際には、テレビを消して音楽を流すようにしている。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	ひとり一人の体調や身体状態に合わせて調整したり、水分は記録に残すようにしている。						
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事がすすまない方には御飯にふりかけをかけたたりする。お茶の代わりにジュースにしたり、栄養剤を処方している方もいる。						
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立は厨房職員が決められている。食事に関しては検査簿を書いたり、厨房職員と話すこともある。					△	盛り付けの際には、職員同士で食事形態について話し合っている。厨房では塩分控えめの食事作りに気を付けている。定期的な話し合いの機会や栄養士にアドバイスを受ける機会は持っていない。
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	用具や厨房全体の消毒を毎日実施している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの必要性、重要性について周知している。				口腔ケア時の目視にとどまっている。異常があれば受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	口腔ケア時に観察している。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	過去に歯科医より指導していただいたが、1年間は学べていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夕食後は義歯を預かる。週1回消毒洗浄している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	歯磨き粉を使用して自力で磨いたり、うがいのみされたりとその人の力に合わせて支援している。			評価困難	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ご利用者の心身について理解し、自尊心を傷つけないように声掛けしている。				業務カンファレンスや朝・夕の申し送り時に話し合っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	運動をしたり水分摂取に気をつけている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表を利用したり、普段の動きをみて把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	本人の訴えもあり難しい方でも二人介助でトイレに座っている。オムツに関しては常にはないが、場合によって見直すことある。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	医師や看護師と相談しながら取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	兆候がみられるご利用者は、早めに声掛けして誘導している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ご本人によって選択するのは、難しいのが現状であり、ご家族と話し合うことが多い。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	時間や尿量に合わせて、昼夜でパッドを切り替え正しい使い方で支援している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	毎日のリハビリ体操や、歩行運動後のトイレ誘導、腹部マッサージ、牛乳やヨーグルト摂取をして働きかけている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	週2回の午前中と決めてしまっている。入浴の順番や午後からと希望がある方にも対応している。	◎		△	週に2回、午前中の入浴を支援している。重度の利用者についても職員2名で介助して浴槽で温まることができるように支援している。室内で過ごす時間が長いことも踏まえて、今後さらに、入浴を楽しむという視点から支援に工夫をしてはどうか。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	ひとり一人お湯を入れ替えて、家庭用の浴槽にゆつくり入浴している。冬至にはゆず湯実施した。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	ご本人ができるところは洗っていただく。重度の方にも安心して入浴できるように二人介助することもある。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	入浴したくない時は、時間を空けたり日付を変更する。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックを行い、その日の状態によっては入浴を中止することもある。入浴後は水分補給促している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	毎日の記録や申し送りで把握している。				調査訪問日は、ベランダに布団を干していた。医師に相談しながら薬剤の調整に取り組み、減薬につながった事例がある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中帯にレクリエーションや体操等を行い、活動性をあげている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の過ごし方を検討し、医師とも相談して支援している。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	座りっぱなしにならないよう状態に合わせて、昼寝やご本人の希望時に休息している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の訴えがある時は、電話をしたりしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	会話の中で、家族への電話を促す支援をしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	訴えがあればスムーズに誘導して、いつでも電話かけられるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙や郵便物は、すぐにご本人に手渡ししている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	協力を得てご家族から電話をかけてくれる方もいる。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	財布を所持していただくことで、安心して生活している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物の頻度が少ないので、理解や協力は得ていない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と本人の要望もあり所持している方がいる。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご本人とご家族と話し合ったうえで支援している。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理が困難な方は、立替え払いして買い物している。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族希望にて退院時に職員同伴で郵便局に来てほしいと要望があり支援した。外出支援できる体制にしている。	○	○	利用者の受診の際には、職員が付き添っている。	
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先に花を置いたり敷地内の花壇に野菜を植えたりしている。	○	◎	○	正月には門松を飾った。玄関周りは掃除が行き届いていたが、親しみやすい点からは工夫の必要を感じた。また、インターホンを鳴らしても事業所には聞こえていないようだった。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	日めくりカレンダーを設置。廊下には、作品や出来事をまとめた物を掲示している。	○	○		評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、事業所からの希望により、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	フロアには気持ちのよい光が入ってくる。毎日床を消毒して拭いている。				評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、事業所からの希望により、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じるような飾り物を作成してフロアや居室入り口に掲示している。				評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、事業所からの希望により、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	集まって話しやすいテーブルや個別のテーブル、少し離れたソファ等、くつろいで過ごせるようにしている。				評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、事業所からの希望により、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	収納ケース、ぬいぐるみ、布団、テレビ、造形等、希望の物を持ってきていただき、ゆったり過ごせるようにしている。			○	評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、事業所からの希望により、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	本人が分かるように居室入口にはネームプレート利用。トイレドアに「便所」と貼り紙をして分かりやすくしている。				評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、事業所からの希望により、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞、虫眼鏡、パズル、白湯等、自由に取れるようにしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	玄関の施錠はせず、いつでも出入りができるようにしている。	◎	◎	◎	併設施設と共有の1階玄関、2階事業所の出入り口は、日中は施錠していない。業務カンファレンス時に、管理者が鍵をかけることの弊害について話をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	鍵をかけず自由に生活していただくことをご家族に理解してもらっている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテや薬剤情報を見たり申し送りして把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日報や個人記録に記入して、職員間で情報共有できるようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	訪問時やいつでも電話相談できる関係を築いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	希望時は、かかりつけ医と相談してから受診できている。	○			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	希望に応じて受診や医療を受けられている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診後は、ご家族に結果報告するようにしている。場合によっては、かかりつけ医から報告や話し合うこともある。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供書を作成して、入院先に情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	随時情報交換を行い、ご利用者本位の話し合いをして早期に退院することもある。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	1週間に1回訪問看護師に来て頂き、2時間ほど滞在され話し合いながら取り組んでいる。報告書も届く。隣接している事業所の看護師にも相談している。				
		b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	かかりつけ医、訪問看護師ともに24時間体制となっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日FAXで状態報告して、状態変化に応じて早めに報告や相談をして指示を仰いで対応している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	ひとり一人の薬剤情報に目を通して理解している。日々の介護記録や日報に記録している。また、毎日かかりつけ医へ状態報告のFAXを送っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	内服薬の準備や服用直前は、必ず職員二人で声に出して確認してから行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	内服薬の変更時に気をつけている。日頃から心身の状態を観察して職員間で情報共有している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	△	状態に応じて話し合い意向を確認している。				入居時、家族に説明を行い、その後は、状態変化時や食事が減ったような時に、話し合いの場を持ち、方針を共有している。令和3年11月に、事業所では、初めて利用者の看取りを支援した。家族には、こまめに状況を報告して職員で協力し合い支援した。さらに、家族アンケート結果を踏まえた取り組みに工夫してほしい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化時には、かかりつけ医や職員交代、話し合い方針を共有している。	△	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	現在の職員で対応できると把握している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	△	状態によって話し合いをして理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療関係者と話し合い看取りができる体制を整えて準備している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	ご家族の思いを聞いて、希望に沿って支援している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肺炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	×	感染症について内部研修できなかった。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	予防や対応については把握しているが、日頃からの訓練はできていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	感染症についての情報を入手して、予防や発生時の対応について検討している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	検温、手洗い、うがい、手指消毒を実施。洗面台に手洗手順を掲示。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族と相談したり、支援についてお願いして、共に支えるようにしている。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 管理者が家族に電話する用事がある時には、日常の様子を伝えている。 新型コロナウイルス感染症対策のため、面会が十分にできないことを受けて、令和3年6月より、利用者の暮らしぶりの写真を載せた楽生苑だよりの発行を再開している。楽生苑だよりは、職員が順番に作成している。 介護計画送付時に管理者が手紙(日頃の様子や状態)を書き同封している。 行事の様子は、楽生苑だよりに載せて報告をしている。運営推進会議議事録をすべての家族に送付しているが、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等の報告までには至っていない。 面会は、利用者は2階ベランダから、家族は建物の外側から行っている。家族の来訪時や電話する際に気になることや希望等を聞いている。誕生会の際に、2家族がりモーで面会を行った。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	新型コロナウイルス感染防止のため面会禁止、場面や機会はない。	△			
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	現在は面会が禁止なため、家族とは電話でのやりとりが多い。また、毎月発行しているお便りを見て、本人の様子が分かるので安心しているという声を聞く。	○		○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご自宅でのことや昔の話を聞いて、理解を深めている。現在の認知面について説明して理解していただいている。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会議議事録やお便りを通して報告している。	△		△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	リスクがある場合は対応策を検討し、了承を得たり協力して頂いている。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会はできないが、用事があって来所されたり、定期的に連絡をして伝えたり相談しやすい関係作りをしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	説明を行い納得されたうえで、契約を交わしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居時に退居についても説明している。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立段階から地域の人に説明して、事業所の理解を図っている。		○		町内会に加入しており、回覧板が回ってきている。7月の地域清掃の際には、職員が参加した。管理者は、地域とのつながりがとても減っていることを課題に感じている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	新型コロナウイルスの影響により、地域行事がなく日頃からの関わりができていない。7月には地域清掃には参加した。		○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	運営推進委員や婦人会の方々に理解は得ているが、関わりがない。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	新型コロナウイルス感染防止のため、地域との接触がない。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	新型コロナウイルス感染防止のため、現在ははない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	新型コロナウイルス感染防止のため、現在ははない。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	月1回理容店の方に訪問して頂いている。				
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	新型コロナウイルス感染防止のため、運営推進会議を開催できていない。	△		△	地域住民、市内の他事業所の管理者、大洲市担当者に会議報告書を送付して口頭で意見等を聞いている。 報告書に、利用者状況・活動・研修、外部評価実施後は、目標達成計画の内容を記載して報告し、口頭で意見等を聞いているが、意見はほぼ出ないようだ。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	×	新型コロナウイルス感染防止のため、運営推進会議を開催できていない。		○	△	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	開催していた時は、出席しやすい昼間の時間帯にしている。テーマによってメンバーは変更していない。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	フロアに理念を掲げている。毎朝申し送時、理念を唱和している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	お便りの表紙に記載して認識して頂いている。	△	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	事業所の費用負担もあり、内外の研修を受けるようにしている。現在は新型コロナウイルスの影響もあり外部研修は控えている。				
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	内部研修年間計画を立て実施しているが、新型コロナウイルス感染防止のため、開催頻度が減っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	代表者は話やすく職員の声を聞いて、職場環境・条件の整備に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	新型コロナウイルス感染防止のため、事業所外との関わりが少ない。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	新型コロナウイルスの影響により、自粛協力していただき、親睦会もできず変わった取り組みはない。	○	○	×	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	年に2回内部研修を実施して、対応方法や手順についても理解している。普段の声掛けや身体の傷等も確認して注意している。			○	年2回、虐待防止に関する内部研修を行い、勉強をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送りや会議の時に話し合いをしてケアの見直ししている。				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ご利用者への声掛けや対応を一緒に考えて注意している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	年に2回内部研修を実施して理解を深めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	内部研修や会議の中で話し合うこともある。				
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束の要望や拘束をした事例はない。もし要望があったり、緊急やむを得ない場合は話し合うことにしている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	×	理解できていない。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	該当者がいない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成している。各自周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	訓練を定期的に行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	報告書にまとめて対応策も記入して、目を通したら確認印も押すようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	会議や申し送り等でリスクについて話し合い検討している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応マニュアルは作成しているが、適宜対応方法については検討していない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	場合によっては、市へも報告するようになっている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに回答して解決し、信頼関係を築くように努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	個別で聞いたり、要望に合わせて、代表者や管理者が聞いている。感染防止のため、運営推進会議や家族会は開催できていない。	△		△	管理者は、利用者個別に「生活どうですか」と聞いて要望等を聞いているようだが、運営に関する意見はほとんどないようだ。また、家族には、電話や来訪時に聞いているが、意見はほとんどないようだ。さらに、家族アンケート結果を踏まえて、運営についての意見や要望を聞くような取り組みを工夫してほしい。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	苦情や相談があった際に対応するようにしている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	職員から聞くと要望を聞いていただく。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員からの意見や提案が活発にあり、共に支援について検討し取り組んでいる。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価について説明行い理解した上で、ひとり一人に評価表を配り、考えながら記入してもらい取り組んでいる。				外部評価実施後は、運営推進会議の報告書に目標達成計画の内容を記載して報告している。モニターをしてもらうような取り組みは行っていない。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価の結果によって事業所の現状や課題が分かった。達成できる目標を立てて取り組んだ。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターしてもらっている。	△	運営推進委員の方々、市町、ご家族に報告しているが、モニターはできていない。	△	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	取り組みの成果は随時確認できていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	各災害時に対しての対応マニュアル作成している。				年2回、利用者と職員で、併設事業所と合同の避難訓練を行っている。地域との協力支援体制確保の取り組みは行っていない。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	新型コロナウイルス感染防止のため、訓練回数は減っている。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検している。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	新型コロナウイルス感染防止のため、外部と連携をとった訓練はできていない。	△	△	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	新型コロナウイルスの影響により、例年の地域防災訓練が実施されておらずできていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	過去に地域の方々に車椅子使用方法を教えたことがあったが、新型コロナウイルスの影響で現在地域との関わりがない。				地域からの相談は併設小規模多機能事業所が行っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	機会がなく相談支援はできていない。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	新型コロナウイルス感染防止のため、現在は地域を巻きこんでのイベントをしていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	受け入れに協力することは可能だが機会がない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	新型コロナウイルスの影響により、市町や他事業所と実施していた連絡会や地域行事ができていない。			△	